使徒 11

″さて、使徒たちやユダヤにいる兄弟たちは、異邦人たちも神のみことばを受け入れた、ということを耳にした。″
使徒の働き　11 章 1 節

″そこで、ペテロがエルサレムに上ったとき、割礼を受けた者たちは、彼を非難して、「あなたは割礼のない人々のところに行って、彼らといっしょに食事をした」と言った。
使徒の働き　11 章 2～3 節

″そこでペテロは口を開いて、事の次第を順序正しく説明して言った。
「私がヨッパの町で祈っていると、うっとりと夢ごこちになり、幻を見ました。四隅をつり下げられた大きな敷布のような入れ物が天から降りて来て、私のところに届いたのです。
その中をよく見ると、地の四つ足の獣、野獣、はうもの、空の鳥などが見えました。
そして、『ペテロ。さあ、ほふって食べなさい』と言う声を聞きました。
しかし私は、『主よ。それはできません。私はまだ一度も、きよくない物や汚れた物を食べたことがありません』と言いました。
すると、もう一度天から声がして、『神がきよめた物を、きよくないと言ってはならない』というお答えがありました。
こんなことが三回あって後、全部の物がまた天へ引き上げられました。
すると、どうでしょう。ちょうどそのとき、カイザリヤから私のところへ遣わされた三人の人が、私たちのいた家の前に来ていました。
そして御霊は私に、ためらわずにその人たちといっしょに行くように、と言われました。
そこで、この六人の兄弟たちも私に同行して、私たちはその人の家に入って行きました。
その人が私たちに告げたところによると、彼は御使いを見ましたが、御使いは彼の家の中に立って、『ヨッパに使いをやって、ペテロと呼ばれるシモンを招きなさい。
その人があなたとあなたの家にいるすべての人を救うことばを話してくれます』と言ったというのです。
そこで私が話し始めていると、聖霊が、あの最初のとき私たちにお下りになったと同じように、彼らの上にもお下りになったのです。″
使徒の働き　11 章 4～15 節

″私はそのとき、主が、『ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは、聖霊によってバプテスマを授けられる』と言われたみことばを思い起こしました。″
使徒の働き　11 章 16 節

″こういうわけですから、私たちが主イエス・キリストを信じたとき、神が私たちに下さったのと同じ賜物を、彼らにもお授けになったのなら、どうして私などが神のなさることを妨げることができましょう。」″
使徒の働き　11 章 17 節

″人々はこれを聞いて沈黙し、「それでは、神は、いのちに至る悔い改めを異邦人にもお与えになったのだ」と言って、神をほめたたえた。″
使徒の働き　11 章 18 節

″さて、ステパノのことから起こった迫害によって散らされた人々は、フェニキヤ、キプロス、アンテオケまでも進んで行ったが、ユダヤ人以外の者にはだれにも、みことばを語らなかった。
ところが、その中にキプロス人とクレネ人が幾人かいて、アンテオケに来てからはギリシヤ人にも語りかけ、主イエスのことを宣べ伝えた。
そして、主の御手が彼らとともにあったので、大ぜいの人が信じて主に立ち返った。″
使徒の働き　11 章 19～21 節

″この知らせが、エルサレムにある教会に聞こえたので、彼らはバルナバをアンテオケに派遣した。
彼はそこに到着したとき、神の恵みを見て喜び、みなが心を堅く保って、常に主にとどまっているようにと励ました。
彼はりっぱな人物で、聖霊と信仰に満ちている人であった。こうして、大ぜいの人が主に導かれた。″
使徒の働き　11 章 22～24 節

″バルナバはサウロを捜しにタルソへ行き、
彼に会って、アンテオケに連れて来た。そして、まる一年の間、彼らは教会に集まり、大ぜいの人たちを教えた。弟子たちは、アンテオケで初めて、キリスト者と呼ばれるようになった。″
使徒の働き　11 章 25～26 節

″そのころ、預言者たちがエルサレムからアンテオケに下って来た。
その中のひとりでアガボという人が立って、世界中に大ききんが起こると御霊によって預言したが、はたしてそれがクラウデオの治世に起こった。″
使徒の働き　11 章 27～28 節

″見よ。その日が来る。ーー神である主の御告げーーその日、わたしは、この地にききんを送る。パンのききんではない。水に渇くのでもない。実に、主のことばを聞くことのききんである。
彼らは海から海へとさまよい歩き、北から東へと、主のことばを捜し求めて、行き巡る。しかしこれを見いだせない。
その日には、美しい若い女も、若い男も、渇きのために衰え果てる。″
アモス書　8 章 11～13 節

″今すぐ、エジプト全土に七年間の大豊作が訪れます。
それから、そのあと、七年間のききんが起こり、エジプトの地の豊作はみな忘れられます。ききんが地を荒れ果てさせ、
この地の豊作は後に来るききんのため、跡もわからなくなります。そのききんは、非常にきびしいからです。″
創世記　41 章 29～31 節

″そこで、天の御国は、たとえて言えば、それぞれがともしびを持って、花婿を出迎える十人の娘のようです。
そのうち五人は愚かで、五人は賢かった。
愚かな娘たちは、ともしびは持っていたが、油を用意しておかなかった。
賢い娘たちは、自分のともしびといっしょに、入れ物に油を入れて持っていた。
花婿が来るのが遅れたので、みな、うとうとして眠り始めた。″
マタイの福音書　25 章 1～5 節